



2007.12

No. 167

MONTHLY

れんごう

北海道

<http://www.rengo-hokkaido.gr.jp>

発行

日本労働組合総連合会 北海道連合会

発行責任者 村田 仁

〒060-8616 札幌市中央区北4条西12丁目 ほくろビル6F TEL(011)210-0050 center@rengo-hokkaido.gr.jp

灯油高騰で道に緊急要請

連合北海道と民主党北海道が共同で

連合北海道は11月28日、民主党北海道と共同して道に対し、「灯油・ガソリン等石油製品の高騰に関する緊急要請」を行い、価格安定や生活弱者への支援策拡充に向け実効ある対策を講ずるよう求めた。

灯油・ガソリン等の異常な価格上昇が、道民の生活や産業活動を圧迫している。4年前に比べて2倍近い水準は、1982年の第2次オイルショックの再来と言われ、道民所得の低下に加え税金や年金・社会保険料の負担増・給付減を考えると、今回の値上がりによる家計への影響は極めて重い。とくに年金生活者や低所得者層にとっては死活問題で、生活弱者へのきめ細かい対策が緊急に求められる。

今回の要請には、連合北海道から武田副事務局長と中村総合政策局長、連合石狩地協の山本副事務局長が参加、また民主党北海道は鉢呂代表をトップに逢坂副代表ならびに道議会議員の皆さんが加わった。

対応した道の嵐田副知事は、「明日(11/29)石油価格高騰対策連絡会議を開き、道として何が出来るか、国に何を求めるか検討したい」とし、その上で山本副知事を筆頭に明日、経産省・エネ庁等に緊急要請を実施するとした。

要請団からは、「一次産業への影響が出ているので総合的な対策が必要(伊藤道議)」、「灯油高騰により病院や学校の経費がかさんでおり、自治体予算への影響を道と

して把握すべき。建築確認申請の遅れで施工時期がずれ、冬期施工では燃料代がかかるなど影響は深刻(逢坂衆議)」、「中央とは水道光熱費の認識にギャップがあり、北海道の勤労世帯における冬の灯油量の実態が反映されていない。(山本副事務局長)」、「利尻島のガソリン価格はリッター180円超だが、道は把握しているか(田島道議)」、「価格高騰にどう対処するかを明確にせず、不誠実な国(経産省)の姿勢に道民・消費者は怒っている(中村局長)」など、様々な意見や現場の窮状が示された。

連合北海道では今後、消費者団体など諸団体と連携し、灯油価格の引き下げと道民生活の安定に向けて全道的な取り組みを展開することとしている。



この記事のアドレス http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/policy/policy-info_no63.html

[道への要請項目]

1灯油・ガソリン等石油製品の安定供給、および今年9月時点の水準を目安とした価格の適正化に向けて、効果的な対策を講ずるよう国に求めること。

また便乗値上げや売り惜しみ等がないよう、消費者相談の対応窓口を強化するなど監視すること。

2道は、各市町村に対して高齢者や低所得者など生活弱者への支援策の拡充を求めるとともに、各自治体の取り組みを支援すること。

3灯油等の高騰に伴い、道や各市町村の対策に必要な経費は、特別交付税で措置するよう国に求めること。

4国家備蓄石油の緊急放出を国及び関係機関に働きかけること。

「道政に関する要求と提言」を提出

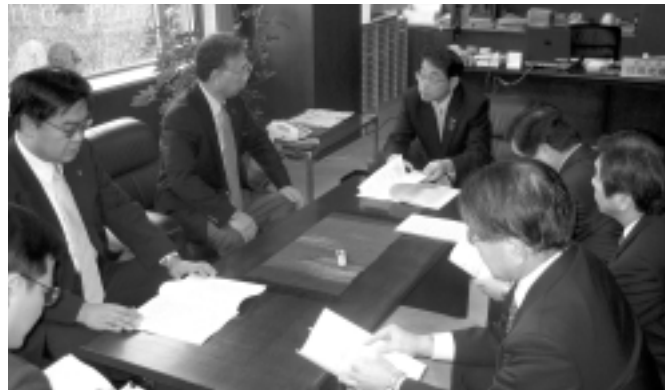
財政・医療問題など51項目174課題

連合北海道は11月29日午前、道に対して「2008年度(平成20年度)道政に関する要求と提言」を提出した。

要求と提言は10月と11月の2回の政策委員会を経て、産別や地協から出された意見をも盛り込んだもので、冒頭、高柳会長は「道財政の厳しさは認めつつも道民生活にかかわるセーフティネットの充実に努力を」と述べ、財政・医療問題など51項目174課題の要求と提言を近藤副知事に手渡した。

骨子について説明した村田事務局長は「町で子どもを産み育てることができない」窮状を指摘するとともに、公共事業の削減についても「落ち込んでいる北海道経済に冷や水をかけるものだ」とし、単なる効率化一辺倒でいいのかと苦言を呈した。その上で、要求と提言の重点項目である1.安心して暮らせる医療体制の確立、2.道民や市町村が納得する道財政の再構築、3.雇用対策、4.一次産業の発展を内容とする要求と提言を説明し、次年度道予算への反映を求めた。

これに対して近藤副知事は道財政の再建について、「交付税減、補助金減で道財政は大変厳しい。赤字団体転落を防ぎたい。行財政改革にご理解願いたい」と協



力を求め、「この要求と提言を検討し回答したい」としたのに対し、高柳会長は「少なくとも今後5年間程度、交付税の見直しを国が示せば、市町村も対応できる。市町村・各級議員などオール北海道として国に窮状を強く訴えるべきだが知事の姿勢は疑問だ」と指摘、「先頭に立って旗を振る姿勢を」とリーダーシップを求めた。

道の回答に基づく各部交渉は12月27日に予定して

この記事のアドレス http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/monthly/monthly_new_2007_1129_do_yokyu-teigen.html

今後の労災病院の運営に関し要請行動

廃止反対など8項目を要請

連合北海道は11月22日、北海道労働局に対し、今後の労災病院の運営に関する要請を行った。

これは現在、「総務省政策評価・独立行政法人評価委員会」及び「行政減量・効率化有識者会議」において、労災病院の民営化やさらなる統廃合が議論されていることを受け行ったもので、北海道には美唄、岩見沢、釧路の3カ所に労災病院があり、地域の中核病院としての役割を果たしている。

連合北海道は8項目にわたり要請を行ったが、特に、労災病院は第2次救急病院に指定され、地域の基幹的・



広域な総合病院としての役割を果たしているため廃止には反対。整理・統合に当たっても、科目の縮小など無いよう配慮すること 労災病院の本務として、労働災害防止への特徴的な医師の配置や機能は勤労者の期待が大きい。特に最近のメンタル問題や複雑化する化学物質の被爆防止や管理、石綿(アスベスト)・じん肺など、研究と普及の拠点として機能強化を望むことを強く要請した。

これに対し福島労働局長は、「労災病院の専門性や、地域の中核的な役割を担っているというのは認識しているし、基本的には考え方は同じだと思っている。ただ、効率性や収支のバランスも考慮し、合理化しなくてはいけない部分もあるが、できるだけことは努力したい。いただいた意見は、本省に伝えたい」と述べた。

連合北海道としては、今後も再編作業を注視し、労災病院のさらなる機能強化・充実を求めていくこととする。

この記事のアドレス http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/monthly/monthly_new_2007_1122_yosei_robryo.html

年金・医療の充実と税制改正を求めて街頭行動

STOP! THE格差社会キャンペーンⅡ 2日間で1,063筆の署名を集める

連合北海道と石狩地協、北海道高齢者・退職者団体連合は12月1日・2日の2日間、札幌市内で「STOP! THE格差社会キャンペーンⅡ 年金・医療の充実と税制改正をを求める街頭行動」を実施した。

2日間で連合北海道組合員、退職者連合組合員延べ150名が行動に参加し、年金給付額の実質引き下げとなる「マクロ経済スライド方式」の廃止や年金控除の縮小・廃止は行わないこと、医療費の患者負担増の廃止、そして



後期高齢者医療制度が来年4月から始まるのに伴い、現行の保険料水準を超えないよう措置を講じることなどを訴え、ティッシュ・チラシを配布して理解と署名への協力を求めた。



「医療・税制
一人の負担増はもう限界！」

両日ともそれぞれ3時間の行動で小雪やみぞれが降るあいにくの天候だったが、チラシ7千枚を配布し1,063筆の署名を頂くとともに、「民主党さっぽろ」の道議会議員や市議会議員22名がリレー方式でマイクを握り、理解と協力を訴えた。

この署名は1月25日連合北海道集約で、現在各組織でも取り組まれている。ご協力下さい。

この記事のアドレス http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/monthly/monthly_new_2007_1202_stop_kakusa.html

平和行動への決意新たに

「平和行動in沖縄」に11名が参加

連合北海道の「平和行動in沖縄」が、11月6日から9日にかけて参加者11名により実施された。

今年も、事実上沖縄戦が集結したとされる6月23日に行われる「沖縄慰霊の日」を中心に連合「平和行動in沖縄」が開催されたが、連合北海道は参議院選挙の最中であることから代表者のみが出席し、改めて連合北海道独自行動として代表団を派遣した。

一行は、6日から沖縄に入り、7日に独自学習を開催した。午前中は町の54%程の米軍基地を抱える北谷町で「基地の現状と被害」と題して役場職員からの説明を受け、



最寄りの道の駅から嘉手納基地を視察した。午後からは、「ひめゆり学徒隊」であった宮城喜久子さんから沖縄戦の様子が報告され、悲慘な地上戦が行われた当時の様子



を学ぶことができ大変有意義な学習であった。

11月8日には、「ぴーす・フィールドワーク」が行われ、「糸数壕」「ひめゆりの塔」「北霊の碑」「平和資料館」などを実際に見学し、沖縄戦の実情について学習した。

参加した11名は、今回の経験をもとに、地元及び産別の中でより一層の平和行動に取り組む決意を新たにし、11月9日に帰道した。

この記事のアドレス http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/monthly/monthly_new_2007_1113_peace_okinawa.html

「災害時の炊き出し」を体験

07年度ボランティア講座を当別町で実施

連合北海道ボランティアサポートセンターは、11月17日に当別町で「災害時の炊き出し訓練」と「災害ボランティア活動の実際と心得」の研修を行い、被災地での住民とのかかわりなどについて、理解を深めた。07年度のボランティア講座の一環として行ったもので、15人が受講した。

今回は第4回講座として当別町のNPO法人「災害救援ネットワーク北海道」の施設で、災害時の行動実践や被災地での心構えなどについて、「災害時の炊き出し訓練」と「災害ボランティア活動の実際と心得」の研修を行った。

炊事訓練と研修は、「災害救援ネットワーク北海道」の山口幸雄副理事長が指導し、炊事訓練は大型炊飯器など

を使って、短時間に効率よく分担して調理と後片付けを行う訓練を行い、講座では「ボランティアの基本は、災害ではなく人に寄り添い、被災者とのようにして協働し自分も成長していくのか」などについて体験にも触れながら、ビデオも交えて講演を受けた。



この記事のアドレス http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/monthly/monthly_new_2007_1119_volunteer_tobetsu.html

救急法講習を実施

07年度ボランティア講座を札幌市で実施

連合北海道ボランティアサポートセンターは、12月1日に札幌市中央区の北海道教育会館で、「07年度ボランティア講座」の一環として、日赤(日本赤十字社)北海道支部から指導員を招き「救急法基礎講習」の学科と実技を行ない、修了者は日赤救急法基礎講習修了証の交付を受けた。

当日参加した「ボランティア講座」の受講生17人は昼食休憩を挟んで、午前中は「赤十字救急法」「一次救命処置」の学科と「観察保温」「心配蘇生法」「気道異物除去」の実技、午後からは「AED使用法」の



実技と「全体実技評価」「学科評価」に汗を流した。

日赤支部から講師として指導に当たった、林・加賀谷・小林の各指導員は、「終始、真剣な態度での受講で、全員が無事終了することができ大変うれしい。これからも、市民から救急隊、医療機関へと＝救命の連鎖＝が繋がっていることを十分認識して、もしものときに備えてもらいたい」と終了式で述べた。

連合北海道ボランティアサポートセンターは、これからの講座として「実践講座＝独居高齢者宅の除雪ボランティア(札幌地区連合との共催)」を行った後、終了式を3月に行い、「07年度ボランティア講座」を終了する。

この記事のアドレス http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/monthly/monthly_new_2007_1201_volunteer_lifefsave.html



12・1月の主な動き

イベントカレンダー

[12月]

- 全道ブロックセーフティネットワーク集会
10日(月)10:00 / センチュリーロイヤルホテル
生活危機突破!
生活の安定を求める全道集会
12日(水)18:00 / 共済ホール
- 道立技術専門学院廃止反対全道集会
13日(木)18:00 / 網走オホーツク・文化交流センター
第1回青年委員会幹事会
13日(木)18:00 / 自治労会館
春季生活闘争第2回拡大闘争委員会・連合総研フォーラム
18日(火)13:30 / ポールスター
第2回地協会長・事務局長会議
18日(火)17:00 / ポールスター
第3回中央執行委員会
20日(木)13:30 / 総評会館

常駐者会議

- 25日(火)10:00 / 連合北海道会議室
第3回執行委員会
26日(水)10:30 / 連合北海道会議室
御用納め
28日(金)

[1月]

- 仕事始め
4日(金)
新年交礼会
7日(月)17:00 / 厚生年金会館



組員特別優待クーポン誌

2007-2008年 / 冬

ゆに・ぽん

毎回大好評の
連合組員向け
クーポン。

只今
配布中

